

令和元年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

平成 31 年 3 月 29 日制定

令和元年 9 月 20 日変更

令和 2 年 3 月 4 日変更

独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 31 条の規定により、平成 30 年 3 月 30 日付け 29 文科政第 97 号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、平成 31 年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020 年東京大会」という。）に向けた文化プログラムへ積極的に参画し、特に、その中核的事業として実施する「日本博」の取組を推進する。

なお、本年度は国立演芸場開場 40 周年及び国立文楽劇場開場 35 周年の記念の年に当たる。当振興会の役割について国民の理解を得て、我が国の伝統芸能の保存と振興に資するため、記念公演等の各種記念事業を実施する。

また、本年が組踊上演 300 周年に当たる国立劇場おきなわにおいては、組踊をはじめとする沖縄伝統芸能の継承、発展に資するため、沖縄県及び関係機関と連携し、各種記念事業を実施する。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動

(a) 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）による助成

i. 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動

ii. 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動

iii. 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

(b) 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）による助成

- i. 我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動（舞台芸術創造活動活性化事業）
 - ii. 我が国の芸術団体の水準向上と国際発信力の強化を図り、我が国の国際的なプレゼンスの向上に寄与するため国内外で実施する実演芸術の公演活動（国際芸術交流支援事業）
 - iii. 優れた日本映画の製作活動（映画創造活動支援事業）
- ② 文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- (a) 芸術文化振興基金による助成
 - i. 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
 - ii. 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動
 - (b) 文化芸術振興費補助金による助成（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
 - i. 我が国トップレベルの劇場・音楽堂等が行う事業
 - ii. 地域の中核的役割を担う劇場・音楽堂等が行う事業
 - iii. 複数の劇場・音楽堂等が複数又は単一の実演芸術団体等と共同して行う実演芸術の新たな創造活動
 - iv. 劇場・音楽堂等相互の連携・協力による巡回公演
- ③ その他、文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動（以下、基金による助成）
- (a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動
 - (b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動
- イ 助成金交付事務の効率化等
- ① 基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表する。
 - ② 助成対象活動について、専門委員及び専門調査員並びにプログラムディレクター及びプログラムオフィサー（以下「PD・PO」という。）等により、採択の審査過程で当該活動に期待された点の実現状況の確認等を目的とした公演等調査を行う。補助金による助成対象活動のうち、舞台芸術創造活動活性化事業、劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、調査結果を踏まえて事後評価を行い、評価結果を次年度の助成対象活動の採択のための審査等に活用する。

また、国際芸術交流支援事業については、公演開催地の多くが国外であることから、

調査の費用対効果にも留意しつつ、事後評価に向け、必要に応じて専門委員及びPD・PO等による公演等調査を実施する。

- ③ 助成対象活動に係る会計の執行状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、PD・POによる助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換を実施する。

- ・ 会計調査：90件以上（団体数）
- ・ 公演等調査：540件以上（助成対象件数）

- ④ 特定の分野にとらわれることなく分野を横断した調査研究を進めるため、PD・PO等の体制強化を行う。

また、助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等の結果を踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行うとともに、海外における公的助成システムの実態調査を行うなど、文化芸術に対する支援策等をより有効に機能させる上で必要となる調査研究を実施する。

- ⑤ 地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付に係る業務等の効率化が図れるよう、地方公共団体と連携協力する。

- ⑥ 助成金交付事務手続の合理化を図るため、応募書類の電子データによる受付を含めた助成システム更改事務を行い、2021年度助成対象活動の募集での本格導入に向けて設計・構築作業を進める。

ウ 基金運用収入の将来見込みを踏まえ、補助金による助成事業との役割分担にも留意しつつ、効果的かつ効率的な支援の方策を含めた基金及び基金助成事業の将来の在り方について検討し、2020年度中に方針を周知できるよう、準備を進める。

エ PD・PO等を活用した審査・評価等の仕組みについては、今後とも文化庁と連携し、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討を行い、より有効かつ適切な助成制度の構築に努める。併せて、地域におけるアーツカウンシル機能を有する組織との連携を推進し、機関相互の情報交換やノウハウ等の共有を図るとともに、人的交流について検討を進める。

オ 助成事業によって得られた成果等について、公演事業、調査・養成事業等の振興会の他の事業に活用することを検討する。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術団体が基金を含めた多様な助成制度を活用することができるよう、官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集し、ホームページ等を通じて提供する。

イ 振興会が実施する文化芸術活動に対する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させる。また、引き続き助成対象活動の事例集を作成・配布するとと

もに、ホームページに掲載する。

ウ 助成対象活動の募集に当たっては、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ 文化芸術団体等を対象とした応募相談会を、東京及び大阪のほか、各地域の主要都市で開催する。また、平成30年度から、地域におけるアーツカウンシルとの連携を開始したことを活用し、新たな地域での応募相談会の実施の可能性について検討する。

- ・ 応募相談会実施件数：300件以上（団体数）

(3) 芸術文化振興基金の管理運用

基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、金融市場及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施する。

イ 演目の拡充

- ① 歌舞伎における復活等の上演に際しては、「国立劇場文芸研究会」が補綴を行い、台本を作成する。

また、歌舞伎の新作脚本募集については、新たな試みとして募集説明会を実施し、2020年度に行う募集の充実を図る。

- ② 文楽について、新作の上演に向けて上演台本作成作業を行う。また、上演が途絶えていた場面を復活し上演する。
- ③ 舞踊・邦楽の新作委嘱作品の上演、正倉院に残存する古代楽器を復元・復曲した雅楽曲の再演を行う。
- ④ 大衆芸能の新作脚本募集について、「漫才・コント」の作品を募集し、選考及び表彰を行う。また、過去の入選作品も含めて、上演に向けた準備作業を行う。
- ⑤ 能楽について新たに現行曲の台本演出を大幅に見直す作品を制作する。また、他の能楽堂等で上演された、新作・復曲作品の再演を行う。
- ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能について、組踊上演300周年の取組の一環として、新たに書き下ろす新作組踊を制作するほか、御冠船踊として誕生した舞踊演目と組踊を、当時の演出様式に検証を加え実験的に上演する。併せて、上演機会が少ない優れた演目や、

古典の様式を踏まえた新作組踊の再演を行う。

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2のとおり主催公演を実施する。

(3) 青少年等を対象とした公演

ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表 4のとおり実施する。

イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。

ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラムに対応し、外国人を対象とした公演・入門企画を別表 5のとおり実施する。

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。

イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。

- ① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等と連携協力し、共催、受託等による公演等を別表 6のとおり実施する。
- ② 全国各地の文化施設等における公演等を別表 7のとおり実施する。
- ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8のとおり実施する。
- ④ 伝統芸能の振興等のため、青少年、外国人等を対象としたワークショップを各分野で開催する。

(5) 快適な観劇環境の形成

ア 観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行う。

また、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮し、劇場内外の環境整備等各種サービスの充実に努める。

イ 入場券販売において、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。

ウ 公演内容等の理解を促進するため、解説書等を作成するとともに、音声同時解説や字幕表示等のサービスを提供する。

また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会等を適宜行う。

エ 幅広い観点で実施する観客へのアンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。

ホームページや各劇場に設置するご意見箱等を通じて寄せられる意見・要望については、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図る。また、内容を集計・分析し、その結果をサービスの向上に活用する。

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。
- ② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。
 - (a) ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。
 - (b) SNS やメールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。
 - (c) 外国語版のホームページやパンフレット等の充実に図り、外国人に対する情報発信を効果的に行う。
 - (d) beyond2020 プログラム等への参加を通して、国内外に向けた振興会各種事業の情報発信及び周知を効果的に行う。
- ③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。
 - ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
 - ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
 - ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）
- ④ 観劇を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券等を企画・販売するほか、各種キャンペーンを企画・実施する。
- ⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。
- ⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営し、サービスを提供する。また、引き続き会員校の増加に努めるとともに、利用者の要望等を踏まえ、サービスの拡充を図る。
- ⑦ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇の促進のため、会報等による情報提

供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供する。また、引き続きアンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用する。

- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）
 - ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 8 回程度
- ② 国立文楽劇場友の会
 - ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 4 回程度
- ③ 国立劇場おきなわ友の会
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」（年 4 回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 3 回程度
- ④ クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）
 - ・ 会報「ジ・アトレ」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 12 回程度

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与する。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。

- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
- ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
- ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。
- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実に図る。
- ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

ウ 振興会が有する 6 劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に行う。

(8) 日本博の運営・実施

日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」について、縄文から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等と、国内外にわたり、訪日外国人等に対して戦略的なプロモーションに関

する企画・実施等における、中心的な役割を担う事務局を運営する。

ア 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下で主催・共催事業を体系的に実施する。

- ① 「日本博」の中核となる主催・共催型プロジェクトについて、企画原案の提案を受け付ける。受け付けた企画原案については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の評価、および文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。(別表 12※令和元年度実施分)
- ② 主催・共催型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等との契約・支払等に関する業務を行う。併せて、団体等との連絡・調整に関する業務も行う。
- ③ 主催・共催型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

イ 各地域や団体の特色ある企画について参画プロジェクトとして認証する。

- ① 認証申請に関する相談への対応、申請者との調整を行う。参画プロジェクトへの認証申請は随時受け付ける。
- ② 参画プロジェクトの認証手続きを随時実施する。
- ③ 認証した参画プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

ウ 「日本博」のプロジェクト全体について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施する。

- ① 「日本博」の戦略的なプロモーションに関する方針を検討し、策定する。
- ② 「日本博」のプロジェクト全体について、多様な媒体を活用し、国内外に向けた情報発信を効果的に行う。
- ③ プロモーション業務の終了後、事業者等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

エ 「日本博」の開催に際し実施される、文化芸術活動およびそれらのプロモーション活動を通じた国家ブランディング・インバウンド拡充等、文化的・社会的・経済的効果等を検証する。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、各分野の充足状況及び年齢構成等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。

また、研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽

(歌舞伎俳優)

(a) 第24期生(研修期間2年、6名)の1年目の養成研修

(歌舞伎音楽)

(b) 長唄第8期生(研修期間3年、2名)の1年目の養成研修

② 大衆芸能

(a) 寄席囃子第15期生(研修期間2年、2名)の2年目の養成研修(修了)

③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)

(a) 第9期生(2名)の6年目の養成研修(修了)

(b) 第10期生(2名)の3年目の養成研修

④ 文楽(太夫・三味線:研修期間2年)

(a) 第29期生(3名)の1年目の養成研修

⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)

(a) 第5期生(10名)の3年目の養成研修(修了)

⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、研修発表会を別表9のとおり実施する。

⑦ 以下の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討し、募集を行う。

(a) 第24期歌舞伎音楽(竹本)

(b) 第17期歌舞伎音楽(鳴物)

(c) 第16期大衆芸能(寄席囃子)

(d) 第11期能楽(三役)

(e) 第6期組踊

イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

① 既成者研修発表会を別表9のとおり実施する。

② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

① 養成事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。

② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修

修了者等によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。

- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、パンフレットや研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。

実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

なお、研修発表会等のうち、国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施する。

- ① オペラ研修（研修期間 3 年）
 - (a) 第 20 期生（5 名）の 3 年目の研修（修了）
 - (b) 第 21 期生（5 名）の 2 年目の研修
 - (c) 第 22 期生（5 名）の 1 年目の研修
 - (d) 第 23 期生（5 名程度）の募集
 - (e) 研修発表会等を別表 9 のとおり実施する。
 - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9 月～10 月と 3 月に海外研修を行う。
- ② バレエ研修（研修期間 2 年）
 - (a) 第 15 期生（6 名）の 2 年目の研修（修了）
 - (b) 第 16 期生（7 名）の 1 年目の研修
 - (c) 第 17 期生（6 名程度）の募集
 - (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第 10 期生（3 名）の 2 年目の研修
 - ・ 第 11 期生（1 名）の 1 年目の研修
 - ・ 第 12 期生（若干名）の募集
 - (e) 研修発表会等を別表 9 のとおり実施する。
 - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う。

- ③ 演劇研修（研修期間3年）
 - (a) 第13期生（10名）の3年目の研修（修了）
 - (b) 第14期生（12名）の2年目の研修
 - (c) 第15期生（16名）の1年目の研修
 - (d) 第16期生（16名程度）の募集
 - (e) 研修発表会等を別表9のとおり実施する。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、ホームページ等で事業の周知に努める。
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める。
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用する。
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究を行う。その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用する。
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十四巻
 - (b) 特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言 絵コレクション」図録
 - (c) 「義太夫年表」昭和篇第五巻

(d) 「琉球・沖縄芸能史年表」(2020年度刊行予定)の刊行準備

③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布する。

(a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第三冊

(b) 未翻刻戯曲集第二十六巻

(c) 正本写合巻集 25・26

(d) 「歌舞伎俳優名跡便覧」第五次修訂版

(e) 「冊封琉球図説」

④ 調査研究の成果については、従来の刊行等に加え、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的な活用方法を検討する。

(a) 芝居版画等図録第17巻の発行(web図録第5巻)

(b) 歌舞伎・文楽公演の演目ごとの上演年表等をwebで公開することを検討する。

イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。

① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を行う。

図書については、開架図書の整備、レファレンス、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。

博物資料等については、適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用を努める。

② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり行う。

(a) 図書、錦絵、ブロマイド、公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)のデータベース化

i. 芝居版画等図録第17巻の発行(web図録第5巻)(再掲)

(b) デジタルコンテンツの充実

i. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「歌舞伎編その1～3」のリニューアル版の製作

ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数：520,000件

(c) 収集した資料等の展示公開(別表10)

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る。

(d) 展示図録の刊行

- i. 特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言 絵コレクション」図録（能楽堂・再掲）
- ii. 国立文楽劇場開場 35 周年記念特別企画展示「紋下の家」（仮）図録（文楽劇場）

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者、研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに伝統芸能の研究等に活用する。

イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施する。

- ① 伝統芸能に関する公開講座等を別表 11 のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、適宜参加者へのアンケート調査を行い、内容等の充実に努める。
- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
- ③ 教職員の伝統芸能への理解を深め、教育を受ける児童・生徒に対して伝統芸能の普及促進を図る観点から、教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて実施する。
- ④ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める。
- ⑤ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進するため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める。

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。

- ① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会等を実施する。
- ② 他劇場等の情報を収集して、公演の充実等に活用するとともに、公演プログラム等において公開する。
- ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存を行い、他の劇場施設等への貸与を行う。
- ④ 明治元年から現代までの日本の現代舞台芸術に関する年表をパネル展示等で引き続き紹介する。

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。

- ① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮して、利用促進に努める。
- ② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を行う。
- ③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 10のとおり行う。実施に当たっては、舞台美術センター資料館の現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方について、引き続き検討する。

また、ホームページで公開している「主催公演記録データベース」の充実に努める。

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者、研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに現代舞台芸術の研究等に活用する。

イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施する。

- ① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 11のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、適宜参加者へのアンケート調査を行い、内容等の充実に努める。
- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
- ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 組織体制の整備・強化

2020年東京大会を契機とする文化プログラムの中核的事業として実施する「日本博」において、我が国の文化芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を設置し、企画立案・広報機能の強化を図る。

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札による

こととする。

また、その取組状況をホームページで公表する。

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺の他機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。なお、この他の品目の共同調達の実施については、費用対効果に配慮しつつ検討を行う。

- ① コピー用紙
- ② トイレットペーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO₂)の削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

(5) 情報システムの活用

業務システムの安定稼動を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。

ICカード認証コピーの導入やWEB会議システムの活用により業務や経費の効率化を図る。

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理する。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

- 1 予算 別紙1のとおり
- 2 収支計画 別紙2のとおり
- 3 資金計画 別紙3のとおり
- 4 保有資産の処分

保有資産については、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 平成 30 年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

また、上記の自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る。

ウ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群の改正に伴い、振興会情報セキュリティポリシーを改正するとともに実施手順等の関係文書を策定する。

イ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応する。ウイルスや不正アクセス等の情報を収集し、その傾向や対策等とともに、役職員に対して積極的に情報提供を行う。

ウ 引き続き、研修等により情報セキュリティの意識の高揚に努めるとともに各職員の自己点検、情報システム監査等を実施し、情報セキュリティ対策の評価と改善を行う。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙 4 のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。併せて平成 28 年度に策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づき、「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（個別施設計画）（案）」を策定する。また、施設・設備及び舞台設備の機能維持に必要なメンテナンスを実施する。

国立劇場本館・演芸場等隼町地区の施設・設備（以下「国立劇場等」という。）の改修

については、文化庁等関係機関との協議結果に基づく整備方針を踏まえ、引き続きこれまでの国立劇場等大規模改修基本計画等を見直し、新たに基本計画を策定する。また、整備手法の検討のためにPFI導入可能性調査を行う。

なお、国立劇場等大規模改修に向けた検討及び調査研究については、評議員会、国立劇場等大規模改修懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となって実施する。

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場等については、今後の改修計画との関連に留意する。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。

イ 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。

ウ 国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。

エ 多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討する。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

[別表1] 伝統芸能の公開に関する計画

1 歌舞伎 目標入場者数：214,800人 (30年度計画目標 214,200人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月2日～26日	25回	25日	17,000人
11月歌舞伎公演	〃	11月2日～25日	24回	24日	21,000人
12月歌舞伎公演	〃	12月4日～26日	23回	23日	23,000人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	25回	25日	26,900人
3月歌舞伎公演	本館小劇場	3月3日～27日	26回	23日	9,100人
本公演(5公演)小計			123回	120日	97,000人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「神靈矢口渡」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	55,000人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「菅原伝授手習鑑 一車引一」「棒しばり」	〃	7月3日～24日	44回	22日	62,800人
鑑賞教室(2公演)小計			90回	45日	117,800人
歌舞伎(7公演)合計			213回	165日	214,800人

2 文楽 目標入場者数：174,270人 (30年度計画目標 173,970人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月文楽公演「妹背山婦女庭訓」	本館小劇場	5月11日～27日	34回	17日	15,900人
9月文楽公演	〃	9月7日～23日	34回	17日	17,000人
12月文楽公演	〃	12月3日～15日	13回	13日	6,770人
2月文楽公演	〃	2月8日～24日	51回	17日	21,400人
12月文楽鑑賞教室	〃	12月3日～15日	25回	13日	12,800人
本館(5公演)小計			157回	77日	73,870人
4月文楽公演「仮名手本忠臣蔵(大序～四段目)」、 「祇園祭礼信仰記」「近頃河原の達引」	文楽劇場	4月6日～29日	46回	23日	20,000人
夏休み文楽特別公演 「仮名手本忠臣蔵(五段目～七段目)」ほか	〃	7月20日～8月5日	51回	17日	21,200人
11月文楽公演 「仮名手本忠臣蔵(八段目～十一段目)」ほか	〃	11月2日～24日	44回	22日	19,200人
初春文楽公演	〃	1月3日～26日	46回	23日	21,500人
6月文楽鑑賞教室 「五条橋」、 解説「文楽へようこそ」、「菅原伝授手習鑑」	〃	6月7日～20日	28回	14日	18,500人
文楽劇場(5公演)小計			215回	99日	100,400人
文楽(10公演)合計			372回	176日	174,270人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等 目標入場者数：17,360人 (30年度計画目標 16,060人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
8月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館小劇場	8月3日	2回	1日	760人
8月舞踊公演「舞の会－京阪の座敷舞－」	〃	8月31日	2回	1日	1,000人
11月舞踊公演「京舞」	本館大劇場	11月29日～30日	3回	2日	3,200人
6月邦楽公演「日本音楽の流れⅢ－三味線－」	本館小劇場	6月8日	1回	1日	500人
10月邦楽公演「邦楽名曲鑑賞会」	〃	10月5日	1回	1日	500人
10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	10月19日	1回	1日	560人
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会－長唄の会－、－三曲の会－」	〃	1月18日～19日	2回	2日	950人

11月雅楽公演「雅楽 管弦」	〃	11月9日	1回	1日	400人
9月声明公演「声明」	本館大劇場	9月7日	1回	1日	1,270人
2月声明公演「薬師寺の声明」	〃	2月15日	1回	1日	1,270人
7月民俗芸能公演「祝福芸」	本館小劇場	7月27日	1回	1日	400人
1月民俗芸能公演「出雲の神楽」	〃	1月25日	2回	1日	800人
4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	4月20日	1回	1日	400人
5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体Ⅰ 神々の残照」	本館大劇場	5月25日	1回	1日	1,100人
6月特別企画公演「鶴岡八幡宮の御神楽と巫女舞」	本館小劇場	6月1日	1回	1日	400人
7月伝統芸能の魅力「親子で楽しむ舞踊・邦楽」	〃	7月6日	1回	1日	400人
7月伝統芸能の魅力 「大人のための雅楽入門」「大人のための声明入門」	〃	7月20日	2回	1日	1,000人
本館（17公演）小計			24回	19日	14,910人
10月舞踊公演	文楽劇場	10月12日	2回	1日	810人
8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	8月17日	1回	1日	400人
9月民俗芸能公演「ふるさとの人形芝居」	〃	9月7日～8日	2回	2日	840人
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	5月11日	1回	1日	400人
文楽劇場（4公演）小計			6回	5日	2,450人
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等（21公演）合計			30回	24日	17,360人

4 大衆芸能

目標入場者数：52,420人

（30年度計画目標 52,844人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定席公演（上席・中席）（22公演）	演芸場	毎月実施 （5月・1月は中席のみ）	241回	219日	35,500人
若手新人公演（花形演芸会）（12公演）	〃	毎月実施	12回	12日	3,366人
新春名人会	〃	1月2日～7日	7回	6日	2,016人
国立名人会（11公演）	〃	毎月実施 （1月を除く）	11回	11日	3,134人
特別企画公演（10公演）	〃	毎月実施 （8,11,1～3月を除く）	15回	15日	4,024人
演芸場（56公演）小計			286回	263日	48,040人
浪曲名人会	文楽劇場	2月29日	1回	1日	670人
浪曲録声会	文楽劇場 小ホール	5月25日	2回	1日	290人
上方演芸特選会（6公演）	〃	奇数月に実施	24回	24日	3,420人
文楽劇場（8公演）小計			27回	26日	4,380人
大衆芸能（64公演）合計			313回	289日	52,420人

5 能楽

劇場：能楽堂

目標入場者数：38,190人

（30年度計画目標 35,560人）

区分	公演名	期間	回数	日数	目標入場者数
定例公演	狂言「仏師」、能「一角仙人」	4月3日	1回	1日	580人
	狂言「鈍太郎」、能「邯鄲」	4月19日	1回	1日	580人
	狂言「素袍落」、能「絵馬」	5月8日	1回	1日	580人
	狂言「文荷」、能「加茂 御田」	5月17日	1回	1日	580人

	狂言「薩摩守」、能「藤栄」	6月5日	1回	1日	580人
	狂言「察化」、能「梅枝 越天楽」	6月21日	1回	1日	580人
	狂言「犬山伏」、能「班女」	7月3日	1回	1日	580人
	狂言「左近三郎」、能「夕顔 山ノ端之出・法味之伝」	7月17日	1回	1日	580人
	狂言「河原太郎」、能「白楽天」	9月4日	1回	1日	580人
	狂言「吹取」、能「蟬丸」	9月20日	1回	1日	580人
	月間特集 所縁の能・狂言 狂言「腹不立」、能「国栖 白頭」	10月2日	1回	1日	580人
	月間特集 所縁の能・狂言 狂言「萩大名」、能「咸陽宮」	10月18日	1回	1日	580人
	狂言「磁石」、能「野宮」	11月6日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「鐘の音」、能「橋弁慶 笛之巻」	11月22日	1回	1日	580人
	狂言「業平餅」、能「恋重荷」	12月4日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「鐘の音」、能「橋弁慶 替装束・扇之型」	12月20日	1回	1日	580人
	能「西王母」、狂言「財宝」	1月4日	1回	1日	580人
	狂言「竹生嶋参」、能「海人」	1月17日	1回	1日	580人
	月間特集 近代絵画と能 狂言「鶯」、能「草薙」	2月5日	1回	1日	580人
	月間特集 近代絵画と能 狂言「蟹山伏」、能「井筒」	2月13日	1回	1日	580人
	狂言「牛馬」、能「朝長」	3月4日	1回	1日	580人
	狂言「鬼瓦」、能「当麻 二段返」	3月19日	1回	1日	580人
定例公演 (22公演) 小計			22回	22日	12,760人
普及公演	解説、狂言「鎌腹」、能「田村 白式」	4月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「二人大名」、能「浮舟」	5月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「六地藏」、能「鶉飼」	6月8日	1回	1日	610人
	解説、狂言「入間川」、能「融 遊曲」	7月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「船渡聲」、能「錦木」	9月14日	1回	1日	610人
	月間特集 所縁の能・狂言 解説、狂言「寝音曲」、能「初雪 古式」	10月12日	1回	1日	610人
	解説、狂言「鴈磔」、能「三輪」	11月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「柑子」、能「葛城 大和舞」	12月14日	1回	1日	610人
	解説、狂言「酢薑」、能「八島」	1月11日	1回	1日	610人
	月間特集 近代絵画と能 解説、狂言「二人袴」、能「楊貴妃」	2月8日	1回	1日	610人
	解説、狂言「縄綱」、能「箆」	3月14日	1回	1日	610人
	普及公演 (11公演) 小計			11回	11日
企画公演	【企画公演】特集 対決 蠟燭の灯りによる 狂言「弓矢太郎」、復曲能「碁」	4月25日	1回	1日	590人
	【企画公演】特集 対決 狂言「惣八」、能「正尊」	4月27日	1回	1日	590人
	【狂言の会】家・世代を越えて 狂言「末広かり」、狂言「二人袴」、狂言「蝸牛」	5月24日	1回	1日	590人
	【企画公演】親子で楽しむ能の会 おはなし、能「紅葉狩」	8月3日	1回	1日	590人
	【企画公演】親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「盆山」、狂言「蚊相撲」	8月24日	1回	1日	590人

	【企画公演】狂言と落語・講談 講談「天保水滸伝 笹川の花会」、落語「狸賽」、狂言「博奕十王」	8月30日	1回	1日	590人
	【特別公演】 仕舞、狂言「川上」、能「卒都婆小町」	9月28日	1回	1日	590人
	【企画公演】所縁の能・狂言 狂言「子の日」、能「望月 古式」	10月25日	1回	1日	590人
	【企画公演】組踊誕生300年 能と組踊 組踊「銘苺子」、能「羽衣 和合之舞」	11月28日	1回	1日	590人
	【企画公演】組踊誕生300年 能と組踊 組踊「二童敵討」、能「放下増」	11月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】復曲再演の会 復曲狂言「蜂」、復曲能「吉野琴」	12月25日	1回	1日	590人
	【狂言の会】 狂言「三本柱」、狂言「法師ヶ母」、新作狂言「彦市ばなし」	1月24日	1回	1日	590人
	【企画公演】働く貴方の能楽公演 対談または実演、狂言「瘦松」、能「二人静」	1月30日	1回	1日	590人
	【特別公演】月間特集 近代絵画と能 能「忠度」、狂言「孫聳」、能「室君」	2月29日	1回	1日	590人
	【特別企画公演】能を再発見する 祝言能を見直す「岩船」	3月27日～28日	2回	2日	1,180人
企画公演（15公演）小計			16回	16日	9,440人
鑑賞教室 等	【外国人のための能楽鑑賞教室】 解説、狂言「附子」、能「殺生石」	5月29日	1回	1日	580人
	【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「文山立」、能「船弁慶」	6月24日～28日	10回	5日	6,050人
	【国立能楽堂ショーケース】 解説、狂言「伯母が酒」、能「小鍛冶」	7月24日～26日	3回	3日	1,035人
	【国立能楽堂ショーケース】 解説、狂言「柿山伏」、能「安達原」	8月25日～27日	3回	3日	1,035人
	【外国人のための能楽鑑賞教室】 解説、狂言「棒縛」、能「葵上 梓之出」	10月31日	1回	1日	580人
鑑賞教室（5公演）小計			18回	13日	9,280人
能楽（53公演）合計			67回	62日	38,190人

6 組踊等沖縄伝統芸能

目標入場者数：14,934人

（30年度計画目標 16,784人）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期公演	組踊上演300周年記念 組踊「万歳敵討」「義臣物語」	国立劇場おきなわ 大劇場	4月20日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	4月27日	1回	1日	495人
	組踊上演300周年記念 組踊「忠臣身替の巻」	〃	5月15日	1回	1日	339人
	組踊上演300周年記念 三線音楽「古典音楽の美」	〃	5月25日	1回	1日	371人
	組踊上演300周年記念 組踊「花売の縁」	〃	6月29日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	〃	7月20日	1回	1日	464人
	沖縄芝居 「女王御嶽」 「怪猫伝・化け猫～山田祝女殿内～」	〃	9月14日	1回	1日	368人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	9月28日	1回	1日	464人
	組踊上演300周年記念 民俗芸能「組踊『父子忠臣』」 ～竹富島仲筋村～	〃	11月24日	1回	1日	402人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	12月14日	1回	1日	464人
	琉球舞踊「春夏秋冬を舞う」	〃	1月11日	1回	1日	464人
	組踊「伏山敵討」	〃	2月22日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	2月29日	1回	1日	495人
	三線音楽「島唄の響き」	国立劇場おきなわ 小劇場	3月14日	1回	1日	149人
定期公演（14公演）小計				14回	14日	5,492人

企画公演	組踊上演300周年記念 語り組踊「恋し子の方星」	国立劇場おきなわ 小劇場	6月15日	1回	1日	149人
	組踊上演300周年記念 新作組踊「花の幻」「花よ、とこしえに」	国立劇場おきなわ 大劇場	8月24日～25日	2回	2日	813人
	アジア・太平洋地域の芸能	〃	10月27日	1回	1日	371人
	国立劇場寄席	〃	11月17日	1回	1日	495人
	組踊上演300周年記念 能「翁」「羽衣」	〃	12月21日	1回	1日	495人
	組踊上演300周年記念 能「放下僧」「石橋」	〃	12月22日	1回	1日	495人
	ゆらていく遊ば	〃	1月18日	1回	1日	425人
	新作組踊「春時雨」	〃	3月21日	1回	1日	402人
企画公演（8公演）小計				9回	9日	3,645人
研究公演	組踊上演300周年記念 御冠船踊と組踊「執心鐘入」	国立劇場おきなわ 大劇場	10月4日	1回	1日	396人
	組踊上演300周年記念 御冠船踊と組踊「銘苺子」	〃	10月5日	1回	1日	396人
研究公演（2公演）小計				2回	2日	792人
普及公演	組踊上演300周年記念 組踊鑑賞教室「二童敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	6月8日	1回	1日	405人
	組踊上演300周年記念 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	7月27日	1回	1日	405人
	琉球舞踊鑑賞教室	〃	8月10日	1回	1日	396人
	沖縄芝居鑑賞教室 「怪猫伝・化け猫～山田祝女殿内～」	〃	9月12日～13日	2回	2日	859人
	組踊上演300周年記念 組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	10月16日～18日	6回	3日	2,601人
	組踊上演300周年記念 ～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」	〃	10月19日	1回	1日	339人
普及公演（6公演）小計				12回	9日	5,005人
組踊等沖縄伝統芸能（30公演）合計				37回	34日	14,934人
伝統芸能分野（185公演）合計				1,032回	750日	511,974人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ 目標入場者数：73,500人 (30年度計画目標 75,400人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」(新制作)	新国立劇場 オペラ劇場	4月7日～17日	4回	4日	5,200人
「ドン・ジョヴァンニ」	〃	5月17日～26日	5回	5日	7,300人
「蝶々夫人」	〃	6月1日～9日	4回	4日	5,900人
「トゥーランドット」(新制作)	〃	7月18日～22日	4回	4日	6,200人
「エウゲニ・オネーギン」(新制作)	〃	10月1日～12日	5回	5日	6,800人
「ドン・パスクワレ」(新制作)	〃	11月9日～17日	5回	5日	6,300人
「椿姫」	〃	11月28日～12月7日	5回	5日	7,600人
「ラ・ボエーム」	〃	1月24日～2月2日	5回	5日	7,000人
「セビリアの理髪師」	〃	2月6日～16日	5回	5日	7,000人
「コジ・ファン・トゥッテ」	〃	3月18日～24日	4回	4日	4,800人
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019「蝶々夫人」	〃	7月6日～12日	6回	6日	9,400人
オペラ(11公演)合計			52回	52日	73,500人

2 バレエ 目標入場者数：60,800人 (30年度計画目標 64,700人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「シンデレラ」	新国立劇場 オペラ劇場	4月27日～5月5日	6回	6日	8,600人
「アラジン」	〃	6月15日～23日	6回	5日	9,200人
「ロメオとジュリエット」	〃	10月19日～27日	7回	5日	10,300人
「くるみ割り人形」	〃	12月14日～22日	9回	5日	13,000人
ニューイヤール・バレエ	〃	1月11日～13日	3回	3日	4,100人
「マノン」	〃	2月22日～3月1日	5回	5日	5,400人
こどものためのバレエ劇場 2019「白鳥の湖」	〃	7月27日～30日	8回	4日	10,200人
バレエ(7公演)合計			44回	33日	60,800人

3 現代舞踊 目標入場者数：4,600人 (30年度計画目標 5,600人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
森山開次「NINJA」	新国立劇場 小劇場	5月31日～6月9日	8回	6日	2,100人
中村恩恵×新国立劇場バレエ団 「ベートーヴェン・ソナタ」	新国立劇場 中劇場	11月30日～12月1日	2回	2日	1,400人
新国立劇場バレエ団 DANCE to the Future 2020	新国立劇場 小劇場	3月27日～29日	4回	3日	1,100人
現代舞踊(3公演)合計			14回	11日	4,600人

4 演劇 目標入場者数：41,700人 (30年度計画目標 47,900人)

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「かもめ」(新訳上演)	新国立劇場 小劇場	4月11日～29日	19回	17日	4,600人
少年王者館「1001」(新作)	〃	5月14日～26日	13回	12日	2,300人
「オレスティア」(日本初演)	新国立劇場 中劇場	6月6日～30日	22回	22日	18,000人

「骨と十字架」(新作)	新国立劇場 小劇場	7月6日～28日	20回	18日	4,800人
シリーズ【ことぜん】Vol.1 「どん底」	〃	10月3日～20日	16回	16日	3,900人
シリーズ【ことぜん】Vol.2 「*作品未定」	〃	11月13日～26日	16回	13日	3,900人
シリーズ【ことぜん】Vol.3 「タージマハルの衛兵」(日本初演)	〃	12月2日～23日	18回	17日	4,200人
演劇(7公演)合計			124回	115日	41,700人

※他に、将来の上演に向け作品作りを行うディベロップメント企画「こつこつプロジェクト」、英国ロイヤルコート劇場と連携した劇作家ワークショップを実施。

現代舞台芸術分野(28公演)合計			234回	211日	180,600人
------------------	--	--	------	------	----------

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「神霊矢口渡」		6月2日～24日	46回	23日	55,000人
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「菅原伝授手習鑑 一車引」「棒しばり」		7月3日～24日	44回	22日	62,800人
文楽	12月文楽鑑賞教室	本館小劇場	12月3日～15日	24回	13日	12,800人
〃	6月文楽鑑賞教室 「五条橋」、解説「文楽へようこそ」、 「菅原伝授手習鑑」	文楽劇場	6月8日～20日	28回	14日	18,500人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「文山立」、能「船弁慶」	能楽堂	6月24日～28日	10回	5日	6,050人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室 「怪猫伝・化け猫～山田祝女殿内～」	国立劇場おきなわ 大劇場	9月12日～13日	2回	2日	859人
〃	組踊上演300周年記念 組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	10月16日～18日	6回	3日	2,601人
伝統芸能分野(7公演)合計				160回	82日	158,610人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019 「蝶々夫人」	新国立劇場 オペラ劇場	7月6日～12日	6回	6日	9,400人
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2019 「白鳥の湖」	〃	7月27日～30日	8回	4日	10,200人
現代舞踊	森山開次「NINJA」	新国立劇場 小劇場	5月31日～6月9日	8回	6日	2,100人
現代舞台芸術分野(3公演)合計				22回	16日	21,700人

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表4] 社会人・親子等を対象とした入門企画・公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月7日	1回	1日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月12日・19日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月19日～24日	11回	6日
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12月4日・6日	2回	2日
〃	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6月10日・18日	2回	2日
〃	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場)	〃	7月21日～8月7日	18回	18日
舞踊 邦楽	7月伝統芸能の魅力 「親子で楽しむ舞踊・邦楽」	本館小劇場	7月6日	1回	1日
雅楽 声明	7月伝統芸能の魅力 「大人のための雅楽入門」 「大人のための声明入門」	〃	7月20日	2回	1日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月28日	1回	1日
能楽	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	能楽堂	8月3日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	〃	8月24日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方の能楽公演	〃	1月30日	1回	1日
組踊等	組踊上演300周年記念 組踊鑑賞教室「二重敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	6月8日	1回	1日
〃	組踊上演300周年記念 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	7月27日	1回	1日
〃	琉球舞踊鑑賞教室	〃	8月10日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表5] 外国人を対象とした入門企画・公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI -外国人のための歌舞伎鑑賞教室-」	本館大劇場	6月17日～18日	3回	2日
文楽	12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU -外国人のための文楽鑑賞教室-」	本館小劇場	12月9日・14日	2回	2日
〃	6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU -BUNRAKU for Beginners-」	文楽劇場	6月15日	1回	1日
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	5月29日	1回	1日
〃	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	〃	10月31日	1回	1日
組踊等	組踊上演300周年記念 はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」	国立劇場おきなわ 大劇場	10月19日	1回	1日

※ すべて別表1の公演の中で実施するものである。

[別表6] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	連携協力先等
共催	5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体Ⅰ 神々の残照」	本館大劇場	5月25日	1回	(公財)東京都歴史文化財団
受託	新作狂言 鮎 野村万作・野村萬斎	名古屋能楽堂	5月5日	2回	(株)CBCテレビ
〃	第272回市民の劇場 新作狂言 鮎 野村万作・萬斎	関市文化会館	5月6日	1回	(株)CBCテレビ、関市
〃	金沢市文化ホールリニューアル記念公演 新作狂言 鮎	金沢市文化ホール	6月14日	1回	(公財)金沢芸術創造財団
〃	豊田市能楽堂 狂言づくし 新作狂言 鮎	豊田市能楽堂	11月1日	2回	(株)CBCテレビ、(公財)豊田市文化振興財団
〃	野村万作・萬斎 狂言の世界(仮)	半田市 福祉文化会館	11月2日	1回	(株)CBCテレビ、半田市
〃	地域の文化芸術振興事業	沖縄県内 公立文化施設		1回程度	市町村教育委員会等
共催	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ 小劇場	7～3月	14～19回 予定	(公財)沖縄県文化振興会
〃	新春組踊大公演	国立劇場おきなわ 大劇場	1月	1回程度	(一社)伝統組踊保存会
伝統芸能分野 合計 9 公演					
共催	オペラ「ランスへの旅」	新国立劇場 オペラ劇場	9月5日～8日	4回	(公財)日本オペラ振興会、(公財)東京二期会
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019 「蝶々夫人」	ロームシアター 京都	10月28日～30日	2回	京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団
提携	オペラ「トゥーランドット」	東京文化会館 大ホール	7月12日～14日	3回	(公財)東京都歴史文化財団
〃	〃	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール	7月27日～28日	2回	滋賀県、(公財)びわ湖芸術文化財団
〃	〃	札幌文化芸術劇場 hitaru	8月3日～4日	2回	(公財)札幌市芸術文化財団
現代舞台芸術分野 合計 5 公演					

[別表7] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ	6月26日	2回	(公財)静岡県文化財団、静岡県、他
"	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年センター	7月26日～27日	4回	かながわ伝統芸能祭実行委員会
受託	文楽長門公演	ルネッサながと	7月7日	1回	(公財)長門市文化振興財団
伝統芸能分野 合計 3 公演					
提携	オペラ「トゥーランドット」	東京文化会館 大ホール	7月12日～14日	3回	(公財)東京都歴史文化財団
"	"	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール	7月27日～28日	2回	滋賀県、(公財)びわ湖芸術文化財団
"	"	札幌文化芸術劇場 hitaru	8月3日～4日	2回	(公財)札幌市芸術文化財団
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019 「蝶々夫人」	ロームシアター 京都	10月28日～30日	2回	京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団
受託	演劇「かもめ」	兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール	5月2日	1回	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
"	"	穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール	5月9日	1回	豊橋市、(公財)豊橋文化振興財団
"	現代舞踊「NINJA」	いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場	6月15日	1回	いわき市
"	"	北上市文化交流センターさくらホール 中ホール	6月22日	1回	(一財)北上市文化創造
"	"	水戸芸術館 ACM劇場	6月29日～30日	3回	(公財)水戸市芸術振興財団
"	"	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 中ホール	7月6日	1回	滋賀県、(公財)びわ湖芸術文化財団
"	"	鳥取市民会館 大ホール	7月9日	1回	(公財)鳥取県文化振興財団
"	"	北九州芸術劇場 中劇場	7月13日	1回	(公財)北九州市芸術文化振興財団
"	"	まつもと市民芸術館 小ホール	7月20日～21日	2回	(一財)松本市芸術文化振興財団
"	バレエ「アラジン」	富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)	7月6日	1回	(公財)富山市民文化事業団
"	演劇「骨と十字架」	兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール	7月31日	1回	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
"	こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」	フェスティバルホール	9月21日	1回	(公財)朝日新聞文化財団
"	"	岡谷市文化会館 カノラホール	9月23日	1回	(公財)おかや文化振興事業団
"	バレエ「くるみ割り人形」	札幌文化芸術劇場 hitaru	11月9日～10日	2回	(公財)札幌市芸術文化財団
現代舞台芸術分野 合計 18 公演					

[別表8] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間	回数	連携協力先等
6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	6月17日～18日	3回	
12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	12月9日・14日	2回	
5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体Ⅰ 神々の残照」	本館大劇場	5月25日	1回	(公財)東京都歴史文化財団、トルコ他
6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月15日	1回	
外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	5月29日	1回	
外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」	〃	10月31日	1回	
組踊上演300周年記念 はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」	国立劇場おきなわ 大劇場	10月19日	1回	沖縄県、他
アジア・太平洋地域の芸能	〃	10月27日	1回	文化庁芸術祭執行委員会
組踊上演300周年記念 国立劇場おきなわ特別公演 組踊「執心鐘入」	パリ日本文化会館	12月6日～7日	3回	パリ日本文化会館
伝統芸能分野 合計 9 公演				
演劇研修所 日英演劇アカデミー国際交流公演(仮称)	新国立劇場 小劇場	8月3日～5日	3回	マンチェスター・メトロ ポリタン大学演劇学校
現代舞台芸術分野 合計 1 公演				

[別表9] 研修発表会等に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第15期大衆芸能(寄席囃子)研修修了発表 会、第24期歌舞伎俳優・第8期歌舞伎音楽 (長唄)研修発表会(合同)	本館大劇場	3月14日	1回	1日
能楽	第19回青翔会	能楽堂	6月11日	1回	1日
〃	第20回青翔会	〃	10月8日	1回	1日
〃	第21回青翔会(第九期研修修了発表会)	〃	3月10日	1回	1日
〃	東西合同研究発表会	京都観世会館	8月27日	1回	1日
文楽	第29期文楽研修生発表会	文楽劇場 小ホール	1月28日	1回	1日
組踊	第5期組踊研修生第5回研修発表会	国立劇場おきなわ 大劇場	10月10日	1回	1日
〃	第5期組踊研修生修了発表会	〃	3月5日	1回	1日
伝統芸能分野 研修発表会(8公演)合計				8回	8日
歌舞伎俳優 既成者	稚魚の会・歌舞伎会合同公演	本館小劇場	8月15日～19日	5回	5日
〃	上方歌舞伎会	文楽劇場	8月24日～25日	4回	2日
歌舞伎音楽 既成者	音の会	本館小劇場	8月10日～11日	2回	2日
能楽既成者	第29回能楽若手研究会 京都公演 若手能	観世会館	6月22日	1回	1日
〃	第29回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	大槻能楽堂	1月18日	1回	1日
〃	第29回能楽若手研究会 東京公演 若手能	能楽堂	2月1日	1回	1日
文楽既成者	文楽若手会	文楽劇場	6月22日～23日	2回	2日
〃	文楽若手会	本館小劇場	6月28日～29日	2回	2日
〃	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	8月	1回	1日
〃	若手素浄瑠璃の会	〃	2月	1回	1日
組踊既成者	若手伝承者公演	国立劇場おきなわ 大劇場	12月7日	1回	1日
伝統芸能分野 既成者研修(11公演)合計				21回	19日
オペラ	試演会	新国立劇場 小劇場	6月29日～30日	2回	2日
〃	歌唱コンサート	新国立劇場 中劇場	10月29日	1回	1日
〃	修了公演	〃	2月28日～3月1日	3回	3日
バレエ	「バレエ・アステラス2019」	新国立劇場 オペラ劇場	8月3日～4日	2回	2日
〃	研修所公演	新国立劇場 中劇場	11月2日～3日	2回	2日
〃	修了公演	〃	3月7日～8日	2回	2日
演劇	演劇研修所 日英演劇アカデミー国際交流公演(仮称)	新国立劇場 小劇場	8月3日～5日	3回	3日
〃	朗読劇「ひめゆり」	〃	8月9日～12日	4回	4日
〃	朗読劇「ひめゆり」	国立劇場おきなわ 小劇場	8月21日	1回	1日
〃	試演会	新国立劇場 小劇場	10月25日～30日	6回	6日
〃	修了公演	〃	2月21日～26日	6回	6日
現代舞台芸術分野(11公演)合計				32回	32日

[別表10] 展示に関する計画

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「役者絵の世界Ⅱ-幕末の名優たち-」	伝統芸能情報館 情報展示室	4/1~5/27	57日	7,224人
企画展示「未定」		6/1~9/23	114日	23,837人
企画展示「生誕250年記念 歌川豊国」(仮)		10/2~1/27	113日	18,306人
企画展示「舞台の花鳥風月-装いの美-【前期】」(仮)		2/8~3/31	53日	10,282人
伝統芸能情報館 小計		4回	337日	59,649人
演芸資料展「国立演芸場40年の歩み」	演芸場 資料展示室	4/1~7/21	96日	14,132人
演芸資料展「未定」		7/27~11/24	100日	14,000人
演芸資料展「落語の風景・落語の四季【前期】」(仮)		12/1~3/21	85日	13,175人
演芸場資料展示室 小計		3回	281日	41,307人
入門展「能楽入門」	能楽堂 資料展示室	4/25~8/4	89日	12,460人
企画展「能のいでたち」		8/24~10/31	60日	8,100人
特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・ 神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」		11/6~1/17	57日	8,627人
収蔵資料展		1/24~3/28	47日	6,486人
能楽堂資料展示室 小計		4回	253日	35,673人
開場35周年記念特別企画展示「文楽の世界」	文楽劇場 資料展示室	4/6~5/26	51日	14,700人
常設展示「文楽入門」		6/7~9/8	81日	23,890人
開場35周年記念特別企画展示 「紋下の家~竹本津太夫家に伝わる名品の数々~」(仮)		9/28~11/24	58日	12,480人
常設展示「文楽入門」		1/3~3/15	73日	16,700人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	263日	67,770人
企画展「現代作品に描かれた朝薫とその世界」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/13~6/23	72日	2,990人
企画展「執心鐘入をめぐって」		7/6~9/15	72日	2,990人
企画展「朝薫の五番」		10/4~12/22	80日	3,320人
企画展「アジアの芸能」(仮)		1/11~3/15	65日	2,700人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	289日	12,000人
伝統芸能分野 合計		19回		216,399人
オペラ・バレエ衣裳展示(常設展)	舞台美術センター 資料館	通年	210日	700人
企画展示(途中入替)		通年		
舞台美術センター資料館 小計		2回	210日	700人
公演関係展示(劇場ホワイエ)	新国立劇場内	随時		-
公演関連展示(情報センター)		随時	180日	19,300人
公演関連展示(劇場内公開空地)		随時		-
「日本の現代舞台芸術」(3Fギャラリー)		随時		-
新国立劇場内 小計		4回		19,300人
現代舞台芸術分野 合計		6回		20,000人

[別表11] 公開講座等に関する計画

講座等名称	会場	実施時期	回数
伝統芸能講座(展示関連講座等)	伝統芸能情報館レクチャー室	未定	4回
公演記録鑑賞会(特別公演記録鑑賞会2回を含む)	〃	毎月実施	12回
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12回
能楽特別講座	〃	未定	1回
公演記録鑑賞会	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回
伝統芸能講座	〃	未定	1回
公演記録鑑賞会	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回
沖縄伝統芸能公開講座	国立劇場おきなわ 小劇場・大稽古室・会議室	7月～9月、2月	10回
伝統芸能分野 合計			56回
現代舞台芸術公開講座	舞台美術センター資料館	未定	2回
DVD現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	32回
現代舞台芸術講座	新国立劇場内	未定	7回
現代舞台芸術鑑賞会(情報センター上映会)	新国立劇場情報センター	毎月実施	32回
現代舞台芸術分野 合計			73回

[別表12] 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」	(独)国立文化財機構	4月～6月
春期特別展「骨ものがたり 環境考古学研究室のお仕事」	(独)国立文化財機構	4月～6月
安藤忠雄初期建築原図展に伴う教育普及講座及び関連展示	文化庁 国立近現代建築資料館	6月～9月
邦楽公演「日本音楽の流れー三味線ー」「親子で楽しむ舞踊・邦楽」 「浮世絵の音ー北斎・広重ー（仮）」「邦楽鑑賞会 長唄の会・三曲の会ー四季を巡ってー（仮）」	(独)日本芸術文化振興会	6月～1月
Discover BUNRAKU —BUNRAKU for Beginners—『The ABC of BUNRAKU』 『菅原伝授手習鑑』	(独)日本芸術文化振興会	6月
DiscoverKABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー『解説 歌舞伎のみかた』 『神霊矢口渡』	(独)日本芸術文化振興会	6月
「綴プロジェクト」ー高精細複製画で綴るー スミソニアン協会フリーア美術館の北斎展	公益財団法人 墨田区文化振興財団	6月～8月
MANSAI 解体新書その参拾特別版「5W1H」	株式会社ライゾマティクス	7月
特別展「室町将軍ー戦乱と美の足利十五代」	(独)国立文化財機構	7月～9月
わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」	(独)国立文化財機構	7月～9月
日本文化体験「日本のよらい！」	(独)国立文化財機構	7月～9月
瀬戸内の島々を舞台としたパフォーミングアーツ実施事業	香川県	7月～11月
2019年度平城宮跡資料館夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえんー土の中の花鳥風月ー」	(独)国立文化財機構	7月～9月
「雅楽・声明」公演 ～日本の音と声～	(独)日本芸術文化振興会	7月～11月
民俗芸能公演 ～祝福と神話 自然を背景に～	(独)日本芸術文化振興会	7月～1月
2019国際子どもと舞台芸術未来フェスティバル in 全国	一般社団法人 国際児童青少年舞台芸術協会日本センター	7月～1月
「響きあう、人・海・芸術～せとうち交響」プロジェクト 英語名：Setouchi Symphony	せとうちパレット日本博実行委員会	7月～3月
古代から令和の時代までつながる文化を巡る奈良博覧プロジェクト	奈良県	7月～3月
「円山応挙から近代京都画壇へ VRと日本画技法体験プロジェクト」	(独)国立美術館	8月～12月
日本博を契機とした佐渡の文化資源コンテンツ創成事業（仮称）	アース・セレブレーション実行委員会	8月
「神宿る島」国際文化芸術プロジェクト	宗像国際環境会議実行委員会	8月～3月
ICOM京都大会2019における日本文化の発信ー開会式における無形文化財：能「石橋」の上演と閉会式における日本舞踊「季の節三番叟」の上演ー等	公益財団法人 日本博物館協会	9月
日本博を契機とした横浜版文化資源コンテンツ創成事業	横浜市	9月～11月
日本博を契機とした野外公演事業（仮称）	豊島区	9月～11月
みやぎの神楽 魅力発信強化事業（仮称）	宮城県	9月～2月
日本遺産を活かした伝統芸能ライブ「Nobody Knows」プロジェクト	公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会	9月～3月
アイヌ文化魅力発信プロジェクト ～ アイヌが歩む。アイヌと歩む。～（仮称）	文化庁企画調整課 （国立アイヌ民族博物館設立準備室）	9月～
沖縄の伝統芸能・ユネスコ無形文化遺産「組踊」～300周年の誇りを世界に～（仮）琉球王朝の美～組踊と琉球舞踊、その継承と発信～（仮称）	公益財団法人 国立劇場おきなわ運営財団	10月～3月
日本の伝統芸能、メディア芸術、美術ミックスでインバウンド促進～能楽・歌舞伎・時代劇～	東京アート&ライブシティ構想実行委員会	10月
沖縄の伝統芸能・ユネスコ無形文化遺産「組踊」～300周年の誇りを世界に～（仮）琉球芸能の美と心ー組踊「執心鐘入」との交感 ちがうぞ 色彩、所作、旋律	組踊上演300周年記念事業実行委員会	10月～11月
特集展示「縄文王国やまなし」	(独)国立文化財機構	10月～12月
日本博 in 日本橋 ～江戸歳時記～	日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会	10月
「友禅を継ぐ 人間国宝 森口邦彦」（仮称）	(独)国立美術館	10月

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
フェスティバル奈良	フェスティバル奈良実行委員会	10月～3月
大道芸ワールドカップin静岡2019	静岡市	11月
国立劇場歌舞伎公演『通し狂言 嬢景清八嶋日記－日向嶋－』	(独)日本芸術文化振興会	11月
特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」開催記念 十二単お服上げの再現—現代につながる王朝の美 (仮称)	(独)国立文化財機構	11月
舞踊公演「京舞」～舞から感じる京都の四季～	(独)日本芸術文化振興会	11月
特別展「工藝2020－日本の工藝と自然－」及び「工藝と食」プログラム	(独)日本芸術文化振興会	11月
「鍋木清方 幻の《築地明石町》特別公開」 44年ぶりの再発見作品の特別公開	(独)国立美術館	11月～12月
Discover BUNRAKU –外国人のための文楽鑑賞教室– 『解説 文楽の 魅力』 『平家女護島』	(独)日本芸術文化振興会	12月
パッション20ー近代工芸史にみる「日本研究」の軌跡 (仮称)	(独)国立美術館	12月～3月
障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト～大型ダンスプロジェクト の企画・実施を通じた共生社会の実現 (仮称)	国際障害者交流センター ビッグ・アイ ビッグ・アイ共働機構 (厚生労働省共催)	12月～
特別展「毘沙門天 –北方鎮護のカミ–」	(独)国立文化財機構	2月～3月
2020 東京大会・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル – 2020グランドオープニング –	障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会 (厚生労働省：連携)	2月～3月
日本博を契機とした「ARTISTS' FAIR KYOTO 2020」	京都府	2月～3月
我が国の美術工芸品等修理の技と自然の原材料を活かした伝承と活用— 国宝重要文化財 (美術工芸品) 保存修理成果の現地公開—	(独)日本芸術文化振興会	2月～
越後妻有 雪花火2019/Gift for Frozen Village2019 (仮称)	十日町市	2月～3月
ユネスコ無形文化遺産 特別展「見て・聞いて・触って楽しむ伝統芸能 —日本人と自然—」 (仮称)	(独)日本芸術文化振興会	3月～
「時空を超える日本のアト—古典×現代2020」 (仮称)	(独)国立美術館	3月～
「日本博」2020オープニング・セレモニー 記念公演「月雪花にあそぶ —日本の音と声と舞—」	(独)日本芸術文化振興会	3月
特別展「法隆寺金堂壁画 (仮称)」	(独)国立文化財機構	3月～
特別展「和食」 (仮称) 及び関連プロジェクト	株式会社朝日新聞社 ((独)国立科学博物館との共同事業)	3月～
「神宮の杜芸術祝祭」 祭る。祈る。創る。—持続可能な自然と芸術文 化—	神宮の杜芸術祝祭実行委員会 一般社団法人アートパワーズジャパン	3月～

(合計 54件)

別紙1 令和元年度計画予算

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
収 入						
運営費交付金	279	7,586	700	721	1,163	10,449
雑収入	0	25	31	12	10	78
文化芸術振興費補助金	6,873					6,873
施設整備費補助金		226	5	7		237
基金運用収入	1,114					1,114
寄附金収入	201					201
その他の助成事業収入	12					12
公演事業収入		3,021				3,021
公演受託事業収入		2,622				2,622
計	8,478	13,480	736	739	1,173	24,607
支 出						
一般管理費					1,173	1,173
うち人件費					891	891
うち物件費					283	283
事業費	279	7,612	731	732		9,354
うち人件費	98	1,823	86	192		2,200
うち助成情報提供等事業費	181					181
うち国立劇場事業費		1,717	269	431		2,417
うち国立劇場おきなわ事業費		568	49	75		692
うち新国立劇場事業費		3,504	327	35		3,865
文化芸術振興費	6,873					6,873
施設整備費		226	5	7		237
基金助成事業費	1,327					1,327
うち人件費	200					200
うち物件費	1,127					1,127
公演事業費		3,021				3,021
公演受託事業費		2,622				2,622
計	8,478	13,480	736	739	1,173	24,607

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙2 令和元年度収支計画

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修 事業	調査研究 事業	法人共通	合計
費用の部						
国立劇場公演等事業費		9,647	404	677		10,729
新国立劇場公演等事業費		3,807	330	49		4,187
基金助成事業費	8,493					8,493
一般管理費					1,016	1,016
財務費用	0	3	0	1	2	6
臨時損失	40	2,336	139	296	1,122	3,932
計	8,533	15,793	874	1,024	2,139	28,363
収益の部						
運営費交付金収益	258	6,700	673	631	820	9,082
事業収入	1,114	2,836	31			3,981
受託事業収入		2,622				2,622
財産利用収入		38		4	7	49
資産見返負債戻入	1	621	8	33	22	685
文化芸術振興費補助金収益	6,873					6,873
寄附金収益	201					201
賞与引当金見返に係る収益	18	456	22	51	174	720
退職給付引当金見返に係る収益	17	11	1	1	△ 8	22
財務収益	0	147			0	147
雑益	12	25		8	2	47
臨時利益	40	2,336	139	296	1,122	3,932
計	8,533	15,793	874	1,024	2,139	28,363
純利益	—	—	—	—	—	—
積立金取崩額						—
総利益	—	—	—	—	—	—

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙3 令和元年度資金計画

(単位：百万円)

区 分	助成事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
資金支出	16,325	14,480	736	739	3,409	35,689
業務活動による支出	11,568	12,764	728	644	1,087	26,791
投資活動による支出	1	1,649	7	39	24	1,721
財務活動による支出	9	67	0	56	62	194
翌年度への繰越金	4,746				2,236	6,983
資金収入	16,325	14,480	736	739	3,409	35,689
業務活動による収入	10,978	13,255	731	732	1,173	26,870
運営費交付金による収入	279	7,586	700	721	1,163	10,449
文化芸術振興費補助金による収入	6,873					6,873
公演事業による収入		3,021				3,021
公演受託事業による収入		2,622				2,622
養成事業による収入			31			31
基金運用による収入	1,114					1,114
その他の収入	2,713	25		12	10	2,760
投資活動による収入		1,226	5	7		1,237
施設整備費補助金による収入		226	5	7		237
その他の収入		1,000				1,000
財務活動による収入	600					600
民間出えん金の受入による収入	600					600
前年度よりの繰越金	4,746				2,236	6,983

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙4 令和元年度施設及び設備に関する計画

(単位：百万円)

区 分	予定額	財源
国立文楽劇場外回り等改修工事	165	施設整備費補助金
国立劇場おきなわ防災関連設備等更新工事	55	施設整備費補助金
新国立劇場 電源制御部等更新工事	18	施設整備費補助金